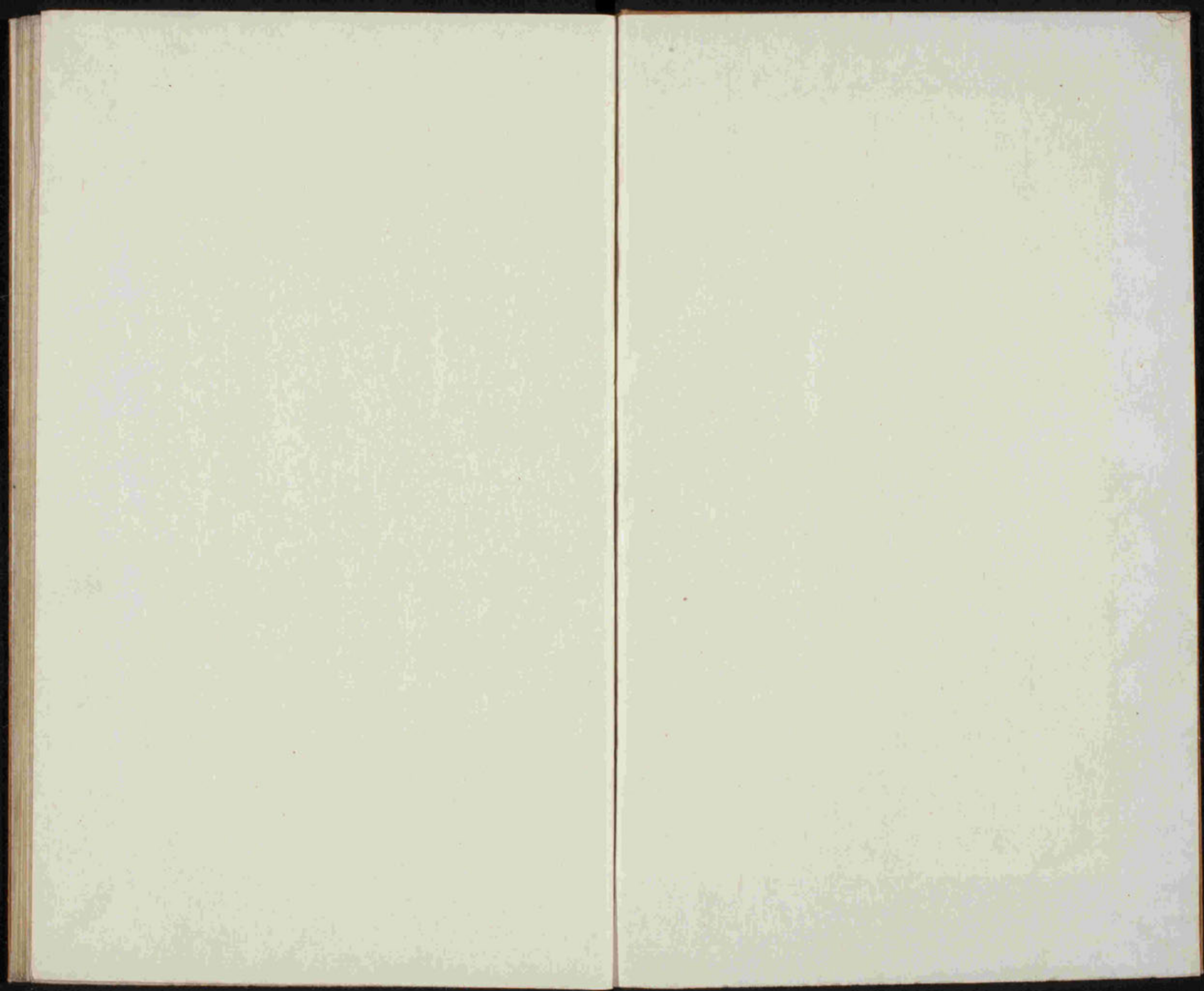


150

167

1



名具佐武草

山延光

青山延光

初稿集

自尔自予



Faint, illegible text in the background, possibly bleed-through from the reverse side.

石印：新刊

包

石



石

石

石

石

石

冠きり

くさくさの園のさくら

又とよとよと糸をさる

神風人の力とたのめ

神風のよと人へのみ

くさくさのさくら

長足の枕は

刀水書屋

天地のあまの國と玉手地

道地あまの國と玉手地

以て世人の角のあまの國と玉手地

あまの國と玉手地

衣のあまの國と玉手地

あまの國と玉手地

漢高ニヨリテ

五
あまの國と玉手地

妻名右

あまの國と玉手地

あまの國と玉手地

左右

あまの國と玉手地

あまの國と玉手地

西午梅さ

つぎに多くさくさくはるの何れ
咲梅さくさくさくさくさく

右

ついでと妻のたもあつたあつた
さのちつとも涙ちりさ
柳澤麿をさ

古梅の糸打すくさくさく

あつとくさくさくさくさく

右

のともちる風吹渡る柳

さくさくさくさくさく

初急さ

まきふのふく初急さくさく

等、安んずるの心からたのむらん

右

くふくしう一人の心と神との神は
ちのぶると色子あしれれり

神祖左

了下ちく結やしらのたまは

神の心にまぐとちり

絶妙

右

あまのたまはしるし

波の人神やちり

あまのたまはしるし

あまのたまはしるし

あまのたまはしるし

雨申若草

しとつらきうらめしき心のうらみもむす

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

春風

前日とちときと心と志とれぬ春風

前日も引けり影を寫すも心く

ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか

思ふ

つとまかす人の心のうらみもむす

行く

野とふる花散れちかちかちかちか
心の端とくくゆつたころ

西宮中月さ

秋乃有子押なうの月いうけれ

事比物やそあまざり

右

月うみのちと顔あそ拂いあん

そまのめあるま思ひせ

遠物雁左

海いし神のちなれさあ

志のまある中あうせん

わ

うりや物やちあさるん

うらぬぐさるま事あぞふる

海色事あさ

いささるあまはあまあ

浮ひきりのり教きじらうり

右緑

風かぜたたええきき二にまま柳りゅう引ひ浮ひののままのの

ままののああららままののああららままののああららまま

初はつままののああららまま

ううららりりししままののああららまま

ああららままののああららままののああららまま

右緑

一いののああららままののああららまま

ささののああららままののああららまま

社しゃののああららまま

天てんののああららまま

ああららままののああららまま

右

神垣の杉の葉の影に花の影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影

影の影の影の影の影の影の影

影の影の影の影の影の影の影

新之巻

○乃るてく神だよりと云はれ
以らうと云はれ

哉元

今も元はにたのちありよおとろ
し物いよまあるとらに
そま元

咲はあるといふ種もたると
そまよんあくがる身

山吹

よさす八季一年のあ
妹よあししと振れ

有性

少るさる池の玉藻よさぞ

ある地のちよん白く

とまるとま

あのかくちゅう ^母 ちよん借也ま
まよつりしちよんちよん

あつちよんちよんちよん

